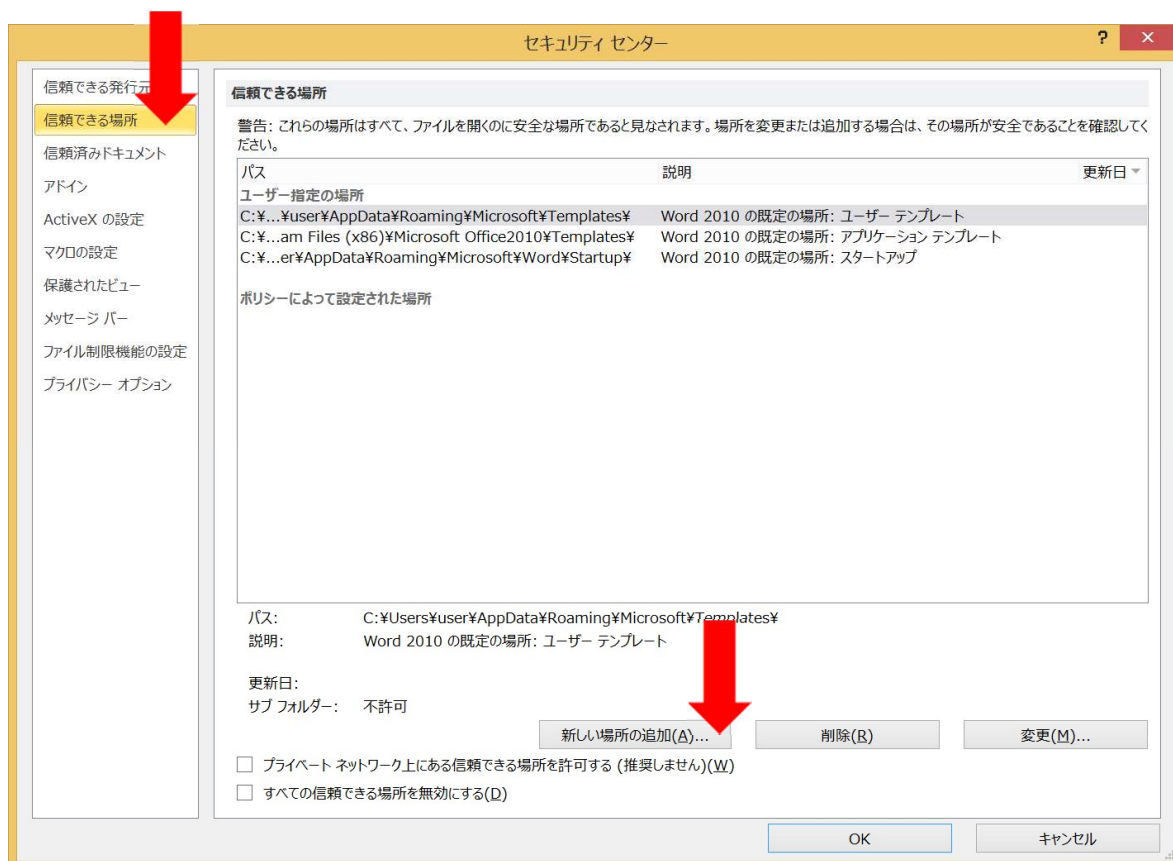


(次の手順は、マニュアルに記載されているものと同じです。設定済であれば省略してください)

- ・「信頼できる場所」を選択すると、「信頼できる場所」画面が表示されます。ここに、JDT2019 をインストールしたフォルダが表示されていない場合は、「新しい場所の追加」をクリックして追加してください。



- ・ OK ボタンを 2 回押して戻り、Word を終了します。

JDT2019 バッチ起動方法

JIS Draft Template はアドインテンプレートを指定し Word を起動する仕様として作成しております。起動プログラムで Winword.exe ファイルの格納場所（Office インストール先）をレジストリより取得し、Winword.exe を JDT のテンプレートをアドインさせ起動させますが、PC 環境によってはレジストリ情報より Winword.exe の格納場所が正しく取得できない事があります。

Office 製品（Word、Excel、PowerPoint 等）の多くはインストールすると簡易的に利用する事ができるように情報登録されています。

「Windows キー」+「R」で表示される「ファイル名を指定して実行」画面で『/Winword』と入力し[OK]ボタンを押下するとインストールされている Word が起動されます。

JDT2019 のバッチ起動はこの機能を利用し JDT を起動させる方法です。

当文書と同じフォルダに起動用のバッチファイル（『JDT2019_start.bat』）が存在しています。このバッチファイルをご利用の PC 環境に合わせ編集して頂きますようお願いいたします。

《編集方法》

- ① JDT2019 がインストールされているフォルダのパスを確認します。
JDT2019 のインストールの際、標準のままインストールされている場合
 - ・ OS が 64 ビット環境の場合以下のフォルダパスを確認してください。
『C:¥Program Files (x86)¥JDT2019』
 - ・ OS が 32 ビット環境の場合以下のフォルダパスを確認してください。
『C:¥Program Files¥JDT2019』
 標準とは異なるフォルダにインストールされた場合は、エクスプローラなどから確認してください。
- ② 確認したフォルダに、『JDT2019_start.bat』（ファイル名は一例です。）というファイルを作成します。テキストエディタまたはメモ帳が使用できます。
- ③ バッチファイルの中身は次のとおりです。
START Winword.exe /n /m /l"C:¥Program Files (x86)¥JDT2019¥JIS_Control.dotm"
- ④ 網掛け部分は、①で確認したフォルダパスです。
標準のままであれば変更は不要です。
- ⑤編集内容を確認し上書き保存してください。

※注意

START Winword.exe /n /m /l"C:¥Program Files (x86)¥JDT2019¥JIS_Control.dotm"

↑
↑

/l と"の間に空白が無い事。
.dotm と"の間に空白が無い事。

《起動方法》

編集保存された『JDT2019_start.bat』をダブルクリックする事で JDT2019 が起動されます。

※ログインのユーザ権限によっては『JDT2019_start.bat』を右クリックし表示されるコンテキストメニューより『管理者として実行』により起動する必要がある場合があります。

以上